

2011 年 秋期大会 領域 9 インフォーマルミーティング議事録

開催日時 2011 年 9 月 22 日 17 時 30 分～
 於 富山大学五福キャンパス(RC 会場)
 領域代表 笠井秀明(2010.10-2011.9)
 領域副代表 有賀哲也(2010.10-2011.9)領域代表(2011.10-2012.9)
 領域運営委員 鈴木良尚, Markus Wilde, 内橋隆(2010.11-2011.10)
 中村恒夫、金有洙、木村勇氣(2011.5-2012.4)

【協議事項】

(1) 領域代表・副代表の選出あるいは任期変更 (68 期)

現行

2010.10-2011.9 領域副代表/2011.10-2012.9 領域代表: 有賀哲也(京都大学, 表面界面分野)
 2011.10-2012.9 領域副代表/2012.10-2013.9 領域代表: 長谷川 修司(東京大学, 表面界面分野)
 2012.10-2013.9 領域副代表/2013.10-2014.9 領域代表: 今 IM で選出

今回より変更が必要

(案 1-1 現行の代表・副代表にそれぞれ半年の延長をお願いする)

2011.10-2012.9+2012.10-2013.3 領域代表: 有賀先生(代表期間が半年延長)
 2011.10-2012.9+2012.10-2013.3 領域副代表/2013.4-2014.3 領域代表: 長谷川先生(副代表期間が半年延長)

(案 1-2 現行の代表・副代表の任期をそれぞれトータルで半年短縮し、今回次期副代表を選出)

2011.10-2012.3 領域代表: 有賀先生 (代表期間が半年短縮)
 2011.10-2012.3 領域副代表/2012.4-2013.3 領域代表: 長谷川先生 (副代表期間が半年短縮)
 2012.4-2013.3 領域副代表/2013.4-2014.3 領域代表: 今 IM で選出

(案 2 現行の代表の任期はそのまま。副代表と次副代表の任期をそれぞれトータルで半年の延長)

2011.10-2012.9 領域代表: 有賀先生
 2011.10-2012.9 領域副代表/2012.10-2013.9+2013.10-2014.3 領域代表: 長谷川先生(代表を半年延長)
 2012.10-2014.3 領域副代表/2014.4- 領域代表: 今 IM で選出 (副代表期間が半年延長)

(その他の案)

* 案 1-1 あるいは 2 が採択された場合、次領域副代表 (次々領域代表) 1 名を選出
 ** 今回以降(69 期~)は代表・副代表の決定については秋季大会で行う

案 2 は 2-1 と 2-2 に分けることができる。67 期は半年 (2011.10-2012.3) になり、4 月からは 68 期からなるので、案 1-2 が良いとの意見。有賀先生に引き受けて頂けるなら、案 1-1 がスムーズで良いとの提案。賛成多数で案 1-1 に決定。今後は秋の I F で次の代表、副代表を決める。

(2) 次々期領域運営委員の推薦・承認

(2-1) 物理学会の事務からは、領域運営委員については任期・選出時期の変更は不要とされている。(もともと 10~9, 4~3 月任期で選出されているため) 現状通りか、領域代表・副代表と同じタームでの入れ替えに切り替えるか。

意見なし。

(2-2) 次々領域運営委員の推薦・承認 (任期期間変更の場合はその期間をお願いする)

表面・界面分科

谷口 正輝 (阪大産研)
 近藤 剛弘 (筑波大学)

結晶成長分科

鈴木仁志 (東北学院大学)

異議なし。賛成多数で可決。

(3) 次大会 (2012 年 年次大会) におけるシンポジウム・招待講演 (敬称略)

(3-1) 招待講演

Germar Hoffmann(スピン偏極 STM/分子スピン) (推薦者:長谷川)

高田恭孝 (理研・量子秩序研究グループ 励起秩序研究チーム) (推薦者:金)

永田勇樹 (界面 SFG シミュレーション Max-Planck Institute) (推薦者:中村)

Germar Hoffmann 氏は台北大学。今年度後期に学振の外国人招聘で来られるので、時期がよい。昨年 *Physical Review Letter* に関連論文を 2 報報告。領域 3 との合同セッションで講演頂くのがベターである。

高田恭孝氏は取り消し。

永田勇樹氏は MaxPlanc Institute の Polymer Research。固体表面というよりは、水と脂質などソフト系の SFG のシミュレーションを行っている。JACS など化学物理系の雑誌に発表されている。別件で来日を予定している。

順位付けは運営委員に一任。賛成多数で可決。

(3-2) シンポジウム

坂本氏から提案

放射光を用いた最先端の研究について企画。光電子分光など。

山本さん (東大物性研) Time-of-flight 型の光電子分光の紹介。時間分解光電子分光測定が可能。軟 X 線領域では世界初となる。

堀場さん (東大工学部) Nano-ESCA。100 nm オーダーでスペクトルスコーピーができる。硬 X 線領域では世界で唯一 (軟 X 線領域はフランスに 1 台) ナノスペクトロスコーピーが可能。

奥田さん (広大) 高効率スピン分解光電子分光装置。エネルギー・角度分解能も従来のものより高く、スピン分解光電子分光の新しい展開が期待。

松田さん (奈良先端大) 従来のものより光電子の取り込みが角非常に広い分析器を開発。マイクロスコーピーがより明るく、スペクトロスコーピーはより多くのブリルアンゾーンが測定できる。

領域 5 から (表面研究に関してご講演いただく予定)

島田さん (広大) 光電子分光装置を真空槽を一緒にまわすことにより、偏光依存測定より電子軌道などが議論可能。

組頭さん (高エネルギー研) PLD 装置と光電子分光装置を組み合わせることにより、真空槽内で作成した薄膜を大気にさらすことなく測定可能。

計 6 名×30 分

(4) キーワード・合同セッションについて

(4-1) 2012 年年次大会に予定しているキーワード

第一キーワード (研究分野)

(1) 結晶成長(オーラル 15/ポスター3)

(2) 表面界面電子物性(37/19)

(3) 表面界面構造(27/19)

(4) 表面界面ダイナミクス(17/4)

(5) 表面ナノ構造量子物性(2/2)

(6) 微粒子・クラスタ(5/2)

(71-75) 新トピックス

(71) 表面磁性(8/1)

(72) 表面局所光学現象(1)

(73) ナノチューブ・ナノワイヤ(13/12)

(74) 水素ダイナミクス(2/1)

(75) トポロジカル表面(4/2)

第二キーワード (物質等)

(21) 金属

(22) 半導体

(23) 無機化合物

(24) 有機化合物

(25) 高分子・バイオマテリアル・コロイド

(26) その他

第三キーワード (手段等)

(31) 走査プローブ顕微鏡法

(32) 電子顕微鏡法

(33) 分光

(34) 回折

(35) その場観察

(36) 技術開発

(37) 理論・シミュレーション

(38) 結晶評価

(39) 核生成

(40) その他

(4-2) キーワードの変更等についての提案

(75) トポロジカル表面について。独立したキーワードとなったことで、プログラム編集時、表面界面電子物性の他関連分野との関連が見逃され、別セッションに配置されてしまう可能性がある。このような不都合を生じないような方策がないか、IMで検討してはどうか？

トポロジカル表面はトポロジカル絶縁体又はトポロジカル物質としてキーワード(2)の物質等に入れてはどうかとの意見。提案者の長谷川先生に確認。光電子分光などは他の領域にもあるので、機動的合同セッションになることもあると、但し書きを付ける。

合同セッションについての現状

口頭発表で「表面磁性」をキーワードで選んだ場合は自動的に領域 3 との合同セッションにする。現在のところ、春は領域 3、秋は領域 9 が開催している。領域 10 とは機動的に合同セッションを開催する。講演募集要項での記述は以下のとおり。

- ・領域 3 (磁性、磁気共鳴分野) と領域 9 (表面・界面分野) は表面磁性に関連する合同セッションを設ける。合同セッションの講演希望者は、領域 3 においてはキーワード「表面・界面磁性」を選択し、要旨欄に「領域 3 & 9 合同」と記入すること。領域 9 においてはキーワード「表面磁性」を選択すること。
- ・発表者・聴衆の便利のため、関連性が強いと思われる講演を組み合わせ、領域 10 との間で機動的に合同セッションを組むことがあります。

機動的合同セッションについて

- ・プログラム編成時に、内容的に合同セッションを組む方が良いと判断される講演数が一定数を超えた場合、合同セッションを設定する。
- ・そのテーマに関するキーワードを、双方の領域で次回募集要項に掲載し、定常的な合同セッションとして立ち上げる。
- ・キーワードの使用頻度が減少したら、削除する。

今回、開催した機動的合同セッション：

今回、領域 7 と開催した機動的合同セッション：

- ・グラフェン (領域 7 主催) 発表件数 12 件 (うち領域 9 : 3 件)

今回、領域 3 と開催した機動的合同セッション：

- ・表面磁性 (領域 9 主催) 発表件数 12 件 (うち領域 9 : 8 件)

合同セッションについての意見はなく、現状維持でよい。